



夏休み中の自学習の成果は

校長 若林 富男

夏休み前の全校集会で、8月末のゴールを描き、目標を持ち、計画を立てて、40日を超す長い休みに臨むようにしましょうという話をしました。これはリーダー・イン・ミーの実践の場として「自学習をしよう」という呼びかけです。

夏休みが終わり、9月3日の登校初日に、その振り返りをしてきました。「ほぼできた」「まあまあできた」「ほとんどできなかった」の三択の自己評価です。举手した児童数を目算でいうと、順に2割—7割—1割でした。保護者の皆様は、夏休みの過ごし方を、どのように評価なさいますか。

サマースクール後半の学童保育は、スクールバスの到着が8時15分頃、帰りが5時でしたので、長丁場です。低学年児童が多い期間ですが、宿題や自由課題に取り組んだり、読書をしたり、折り紙や工作をしたり、体育館で運動をしたりして過ごしました。

学童室は、毎日が自学習の場です。その日の過ごし方を、即座に決めて、「自学習の記録」に記入し実行に移します。最後にその日の振り返りをして翌日につなぎます。



夏休み中の俳句作り

夏休みの学童の活動として、俳句作りに挑戦しました。一人ひとりが作った俳句を模造紙に貼り、学童室に掲示しておきました。(写真参照)

俳句は、日々の小さな感動を、5・7・5の短い言葉で表現するものです。「きれいだな」「うれしいな」「たのしいな」のような概念的な言葉を使うのではなく、実際に目にしたことや耳にしたことを、自分の言葉でスケッチするようにかきます。五感（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚）を働かせて、感じたことを文字にします。そして、何度も声に出して読んで、書き直します。(推敲)最後に色とりどりの短冊（色を選ぶのも大事）に書き、あいているところに絵もかき加えます。

これからも、季節を意識しながら題材を見つけて、四季折々の句を書きためていきましょう。



サマースクール

夏休み後半は講座が無いので、一日学童にいる子もたくさんいました。自分で何をするか考え、宿題を進めたり、他の学年のお友だちとお弁当と一緒に食べたりして、クラスとは違った環境で過ごしていました。時間がたっぷりあったので、「いつもよりたくさん本を読めたよ!」とうれしそうに教えてくれる2年生の姿が印象的でした。(嶋田)